

第3回西区まちづくり懇談会 会議要旨

1 **開催日時** 令和元年（2019年）11月26日 午後6時30分～午後8時

2 **開催場所** 西区役所4階 研修室

3 出席者

(1) 委員（17人中14人出席）

朴座長、谷口副座長、泉委員、浦委員、川崎委員、眞田委員、椿原委員、内藤委員、橋川委員、原田委員、満田委員、水戸川委員、村上委員、本西委員

(2) 西区役所

区長、副区長、地域起こし推進課長

4 議題

西区の魅力と活力を高めるためのアクションプランについて

5 **公開・非公開の別** 公開

6 **傍聴者** なし

7 会議資料

議事資料 西区の魅力と活力を高めるためのアクションプラン2020（素案）

8 議事内容等

議事資料により、地域起こし推進課長が説明を行った。

<発言の要旨>

水戸川委員

先日西区民まつりを開催したが、多くの団体が参加して様々な催しをした。とてもにぎわい、素晴らしかった。松井市長も、西区は一つにまとまっていて勢いがあると評価していた。

それから、アンジュヴィオレ広島は良い選手が集まっている。来期はさらに上を目指して頑張るので、区を挙げて応援してほしい。

横川では3年前に「ガワフェス」というイベントを始めたが、今年も非常に盛り上がり定着してきた。その他にもたくさんの行事・イベントを開催しているので、支援・協力をお願いする。

朴座長

「ガワフェス」のようなイベントは他にも西区で開催しているのか。

川崎委員

この2年は雨で中止になってしまったが、己斐側の太田川放水路でK o i K o i ふれあい水辺フェスタというイベントを開催している。

村上委員

太田川放水路では、他にもカヌーやカヤックのミニ大会が開催されている。

内藤委員

食を活かした取組の関連で、西区の特徴として中央市場がある。東京では市場見学が人気なので、新中央市場の建設に当たっては、見学コースを設けた方がよい。また、西区民まつりの会場と中央市場は近いので、西区民まつりの開催と連携して中央市場でもイベントがあれば、相乗効果でより多くの人が集まると思う。中央市場にはカキ小屋もあり、西区民まつりでカキ小屋イベントがあってもよい。もっと中央市場を活用すべきである。

区長

中央市場では3月に中央市場まつりを開催しているが、西区民まつりなどでも連携できればよいと思う。

地域起こし推進課長

中央市場と調整したい。その上で、アクションプランに記載できるものは記載する。

副区長

新中央市場建設の基本計画が作られているが、その中には内藤委員の提案もにぎわい機能として盛り込まれている。建設に当たっては、その方向で進むよう区としても意見する。

原田委員

川に関して、にぎわいのあるまちづくりには記載があるが、災害などのように危険性もあるため、安全・安心で美しいまちづくりへも防災の観点から何か取組を記載した方がよいのではないかと。

内藤委員

太田川放水路の三滝橋の下の広場では、週末多くの人々がバーベキューをするなどして楽しんでいるが、トイレや電源を整備するなどもう少し使いやすくすれば、もっと人が集まる。

区長

河川管理の観点からも検討が必要であり、トイレや電源の整備となるとハードルが高いかもしれない。

満田委員

地区の公衆衛生推進協議会と老人クラブと一緒に、年に4回くらい太田川放水路を清掃しているが、上流から流れてくるものや、ポイ捨てによりゴミが多い。川を活用するためには、まず川や河川敷がきれいであればならない。

区長

啓発や清掃イベントの開催などにより、川を活用できる環境づくりが必要である。

水戸川委員

確かにポイ捨てが多い。1月に太田川の河川敷でとんどを行う際には、ゴミ拾いも併せて行っている。

川崎委員

Ko i Ko i ふれあい水辺フェスタを開催する際には、公衆衛生推進協議会を中心にみんなで大掃除をしている。イベントを開催する際には、事前に清掃することになるので、イベントを開催することは良いことである。そうして河川敷がきれいになったからか、最近地元の老人クラブがグランドゴルフをするようになった。ただ、太田川放水路の河川敷は、緊急道路なので、どこまで使用してよいのかということがある。普段は車止めに鍵がかかっており、駐車場より先には車が入れないようになっている。

眞田委員

消防団は1月に凧揚げ大会をしているが、その際は太田川河川事務所に許可を取り、鍵を借りて車で入っている。

区長

毎年7月にクリーン太田川というイベントで公衆衛生推進協議会と太田川放水路の清掃を行っているが、かなりの量のゴミがある。なかなかすべてをきれいにするのは難しいが、継続して取組まなければならない。

浦委員

産業別民営事業所数・従業者数の卸売・小売業はそれぞれ内訳が分かるのか。

地域起こし推進課長

統計の担当課に確認する。

浦委員

町内会加入率が低いことが課題であり、これを高めることが重要である。まちづくりの方向性の2から4はコミュニティの絆が強ければ進めやすくなると思う。西区は、飲食店や小

売業が多いのであれば、例えば、町内会に入れば町内の飲食店が安く利用できるなど、町内会に入るメリットを用意できれば、町内会加入率も高まり、様々な問題も解決するのではないか。飲食店や小売業が多いという強みがあるのであれば、それを活用するような施策を検討すべきである。

水戸川委員

町内会の加入促進はなかなか難しいが、中には前向きな人もいる。

区長

町内会に加入するメリットを用意することが大事ということか。

浦委員

いかにきっかけづくりをしていくかということが重要である。

副区長

モデル地区を作って、どのようなメリットを用意できるか地域と話をしながら考えていければよいのではないか。町内会加入率が年々低下していることは広島市全体の問題であり、西区はまだ高い方である。人口と世帯数を見れば分かるが、人口が減っているのに対して世帯数は増えている。加入世帯の数は変わらなくても、全体の世帯数が増えているので加入率が低下する。单身向け住宅が多いなど、地域によって状況が違うので、どのようなことなら関心を持ってもらえるか地域ごとの解決策や方向性などを地域と話し合っていければよいと思う。ちなみに浦委員は町内会に加入しているのか。

浦委員

加入している。

川崎委員

己斐の商店街の加入率は40%ほどであるが、なぜ入らないのかというと住んでいないからである。マンションが多い地区のうち单身向けが多いところは50%くらい。もみじヶ丘団地など戸建住宅が多い地区は100%のところもある。

浦委員

そのように地域ごとにターゲットを定めて、場合によっては住んでいなくても、営業していれば加入してもらうなど運用を緩めることも必要である。町内会以外にも様々なコミュニティがあり、色々と参加していると思うが、基本的には住んでいる町内会に加入し、その上で色々なコミュニティに参加して活動する。これが重要である。

朴座長

アクションプランには外国人に関する記載があるが、西区の概要の中に外国人の人口などの記載がない。外国人に関するデータの記載が必要である。

区長

把握できているデータについては記載することとしたい。

水戸川委員

楠木町には留学生専用のマンションがある。

朴座長

昔、留学生として名古屋に住んでいた頃には、日本社会のことが知りたかったため、住んでいる棟の棟長をするなど、色々なことに参加していた。留学生の中には、学校のことだけでなく、地域のことに興味を持つ人も結構いると思う。横川には修道大学の留学生も多く住んでおり、何か企画できるのではないかと思う。

村上委員

横川は今、ベトナム人が多いようであるが、駅前の違法駐輪に困っている。夜勤の仕事に行くため、夜駐輪して朝にはなくなっている。ベトナムでは自転車の駐輪は違法ではないらしく、日本では違法だということを知らないということのようなので、ベトナム語で張り紙をしている。ごみの出し方にしても日本の習慣を教えないと、今後も問題が発生すると思う。楠木町にある広島ベトナム協会の事務所に話を聞きに行ったところ、今日本に来ているベトナム人は割と日本語が分かる優秀な人たちであるが、今後、家族を呼ぶということになると、日本語が分からないため、トラブルが増えるのではないかということであった。何とか交流を深めようと町内会の話をしたが、貧しいので町内会費も払えないということであった。交流のきっかけを作るため、先日開催したイベントでベトナム人に出店ブースを提供してベトナム料理を出店してもらった。1店舗募集したが2店舗応募があり、どちらも繁盛していた。今後もこのようにして外国人にイベントに参加してもらえば交流も深まっていくと思う。

水戸川委員

留学生は優秀な人が多いが、日本とは習慣が違うため、マナーは覚えてもらう必要がある。

谷口副座長

イベントをきっかけに、町内会未加入者や地域外の人でもコミュニティの仲間に加わるということがあがるが、町内会に入るには回覧板が一人暮らしだとなかなか回せないなどのハードルがある。少し緩い準会員のような仕組みがあってもよいのではないか。回覧板は無理でもスマートフォンで情報を確認できれば留学生や地域外の人なども参加しやすくなるのではないか。そうしておいて大丈夫そうであれば正式に町内会に入ってもらおう。

村上委員

ベトナム人が出店することによって、その友人もイベントに来る。そうやってだんだん垣根がなくなっていく。

朴委員

外国人は横の繋がりが非常に強く、外国人のネットワークがあるので伝わりやすい。

谷口副座長

部屋が借りやすいとか買い物がしやすいとか、留学生間で情報を交換して共有している。

泉委員

高齢者はスマートフォンを使ってということになると難しい。現実的には、各町内会の会長は高齢者が多いので、どうするのかということを考えないといけない。

谷口副座長

そのあたりの支援があると良い。

本西委員

30年町内会に関わってきたが、町内会を頼りにしていたら地域は進歩しない。町内会は戦前の発想であり、若者の心を掴むには発想の転換が必要である。また、イベントの多くは若者や子ども向けであり、高齢者や外国人向けのイベントは少ない。もっと高齢者が何らかの形で参加できるような事業を計画する必要がある。

内藤委員

天満町では町内会の交流を深めるため、毎年マツダスタジアムにカープの応援に行っている。100人くらい応募があり、抽選で50人に絞っているが、若い人にも町内会に関心を持ってもらえる。顔を合わせたことはあるが、じっくり話をしたことがないという意見が出たため、30代、40代の人を対象とした交流会を町内の飲食店で開いたところ、20人くらい集まり、それをきっかけにお祭りを手伝ってもらった。そうすると今度は70代の人と同じように交流会をしたいという話になり、70代を対象とした交流会を開き、15人くらい集まった。何かアクションを起こすと何かしら反応があり、割と参加してもらえる。

太田川放水路でランドゴルフをしているということであるが、スケートボードやBMXができるようなコースを整備して、使用する場合は清掃してもらうことにすれば、若者が集まる広場もできるし、河川敷はきれいになる。

原田委員

エリアマネジメントや協同労働など聞きなれない言葉が使われているが、ボランティアという言葉は使われていない。ボランティアのような自主的な活動が町内会の活性化にも繋が

っていくと思うので、ボランティアに関する記述も必要である。

区長

ボランティア活動に関する記述を追加する。協同労働は、ボランティアではないが、ボランティア的な精神で社会課題を解決するための仕事を仲間で行き組もうというものである。広島市では60歳以上の高齢者を対象に、数年前からグループの立ち上げ時に支援するモデル事業を行っている。3人以上でそれぞれが出資して、サロンや農業、子ども食堂など、高齢者が地域の小さなビジネスを行うというものであり、ボランティアに近い活動をしているグループも多い。現在、広島市で30から40のグループが活動しているが、まだあまり知られていない。

水戸川委員

エリアマネジメントもなかなか難しい概念だが、横川では横川エリアマネジメント連絡協議会を立ち上げて、横川の街をもっと元気にするための取組を行っている。

区長

協同労働とエリアマネジメントについて注釈を記載する。